

## 1 小単元名 長く続いた戦争と人々の暮らし

## 2 小単元について

## (1) 学習指導要領との関連

本単元は、学習指導要領第6学年の内容(1)「我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする」に相当する。さらに内容(1)ケ「日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること」を取り扱うものである。

## (2) 教材について

戦争について学習する時、実際に戦争中の生活を経験した人に話を聞く学習活動を取り入れることが当時の様子を知るうえで有効な手立てだと考えている。しかし、今後戦争を体験した人は年々減少していき、数十年後には誰もいなくなってしまう。また、出来事に対する解釈は人によって異なることがあり、現在も国内において領土問題や基地問題など、解決していない問題が存在している。また、太平洋戦争において、沖縄では日本で唯一の地上戦が行われ、現在も日本に存在する米軍基地のうちの75%が沖縄に集中し、戦争当時の艦砲射撃の破片が今も残されている。

6年生の児童にとって、複雑な要因が関わっている社会的事象を理解することは難しいことであり、資料の提示の仕方によっては、表面的に戦争は悪で、残酷なものであるという理解にとどまってしまうことが考えられる。そこで、本単元では、残されている資料から当時の様子をより深く読み取る力を育てることが重要であると考えた。そのためには、博物館や資料館などを利用し、展示物を見学したり、学芸員から話を聞いたりして、その様子を具体的に理解することが効果的である。国内には戦争に関する博物館がいくつか存在するが、その全てを訪れることはできない。資料の収集・記録・保管・伝承という観点から、子どもが学習する時にも伝承することの大切さを意識させたい。どのように次の世代の人に伝えていけばいいのかということを、単元全体を通して関心がもてるよう意識させたい。そうすることで、単に戦争の惨劇を知り、平和を願う心情を育むためだけではなく、戦争を通して民主主義や国際協調の大切さに気づくことができるのではないかと考えている。

今回、単元の導入でなぜ広島原爆ドームが世界遺産になったのかを考えさせる。そこから、戦争とはどのようなものだったのかを調べ、考えていく。単元を通して、大きく戦争の被害と住民の生活の様子について学んでいく。自分たちの住んでいる生浜地区での出来事、日本が戦線を拡大した満州での出来事について、それぞれゲストティーチャーを招いて話を聞く。一つ一つの地域について、「被害者数」や「戦った国」、「住民の様子」など、比較する観点を設けることで、子どもたちが戦争を学ぶ際に思考しやすくなると思う。沖縄戦を題材に選んだ理由は、沖縄が日本で唯一地上戦が行われ、現在も日本に存在する米軍基地のうちの75%が沖縄に集中していること。艦砲の破片が残されていることや、現在も不発弾の処理に関する記事が地元の新報で報道されているという事実があるためである。

過去の出来事である戦争が、現在の生活に影響を及ぼしている地域を題材としてとりあげることで、大人になってからもニュース等に関心を持てるなどの、社会参画という面から具体的に行動できることを目指す。

## (3) 児童の実態

本学級の児童は、社会科の学習に興味のある児童が多く、4月から歴史の授業を行う中で、学習した内容に関する本を自主的に読んだり、テレビ番組を見たりしている児童が見られるようになってきた。学習した内容が定着するよう、ノートに読みやすくまとめることや、学習して考えたことや思ったことを記述

するよう毎時間指導してきた。

しかし、授業中の発表に関しては、特定の子が発言をする場面も見受けられ、話し合いにおいて自分の思いを表現したり、意見を発表したりすることに対して、苦手意識が感じられる。そのため、加曽利貝塚へ校外学習に出かけたり、「NHK for school」の映像を視聴したりして、体験的な学習を取り入れながら、親しみを感じ、興味関心が高まることを目指してきた。

戦争に関しては、家族や親族・親戚から戦争の体験を聞くという機会はほとんどなく、戦争があった時代を経て現在の自分たちの生活があるということを意識している児童はほとんどいない。

そのため、生浜地区の歴史に詳しい本行寺の住職や戦争を体験したピーススタッフをゲストティーチャーとして招待し、戦争を学ぶ意義や、伝承していくことの大切さに気づかせていきたい。

#### (4) 単元で育てたい力

太平洋戦争は、日本にとって資源の確保のためにアジアの国々を侵略し、未曾有の被害をもたらす結果となった。戦争の実相は、多くの人々が命を落とし、人間の理性や尊厳を奪うむごいものである。しかし、現在も世界では紛争が続いている。児童のほとんどは、戦争は悪であると考えているが、なぜ戦争が起きるのかという理由はほとんどわかっていない。政治や宗教など、それぞれの国の考え方や文化の違いを理解し、相手を尊重することの大切さに気づくこと。それは、クラスの中での人間関係や家族、身近にいる人を大切にするという情意面とも関係していると考えられる。

また、日本が行ってきた戦争の被害と人々の暮らしに焦点をあてて、様々な被害があったことと、どの戦争もたくさんの方が亡くなり、苦しんだ事実を知る必要がある。その際、単元の中では限られた地域と事実しか学習することはできない。そこで、授業の中では戦争を調べていく際に、どんなところに注目していけばよいのかという視点をもたせる。「被害者数」や「被害の特徴」、「どのように伝えているか」など、自分なりに注目し、比較する観点をもっておけば、単元の学習後も新たな事実と出合った時に、考えるものさしとなるはずである。本時では、日本国内で唯一地上戦が行われた沖縄戦を題材に扱っている。テレビゲームで敵を攻撃することとは異なり、爆弾が爆発するとはどういうことかを具体的な事実を重ねていくことによって具体的に想像し、被害の大きさを考えていけるようにしたい。

戦争の体験談や、残された資料によっては、解釈が複数あるものもある。また、戦争の被害について学習する場合、表面的に残酷、怖いといった感想で終わってしまうことも予想される。そのため、戦争の体験談を読む際に、例えば「海岸を逃げ回った」という表記を読んだ時に、海岸が走りやすい砂浜である場合と、ギザギザでとがっている岩だらけのところである場合では、当時の切迫感や追い詰められた状況に対する理解の度合いが変わってくると考える。

さらに、本時で扱う沖縄戦は、日本国内で唯一地上戦が行われた場所であり、現在も基地問題が存続している。今後日本の国際関係をよくしていくことを考えた時に、交渉や決断が求められる場所である。そのため、沖縄戦を題材にすることにより、児童が今後日本人の一人としてどうあるべきかを考え、よりよい社会の発展に関心を持ち、協力していけるのではないかと考えている。

### 3 単元の目標

○日中戦争、我が国にかかわる第二次世界大戦、その頃の国民生活とそれらにかかわる代表的な文化遺産を通して、我が国が戦時体制に移行して、敗戦によって国民が大きな被害を受けたこと、戦場になった地域に大きな損害を与えたことがわかるとともに、それらに関わる代表的な文化遺産の意味を考えようとする。

○日中戦争、我が国にかかわる第二次世界大戦、その頃の国民生活とそれらにかかわる代表的な文化遺産から学習問題を見出し、文化財、地図や年表、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、我が国が戦時体制に移行して、敗戦によって国民が大きな被害を受けたこと、戦場になった地域に大きな損害を与えたことやそれらにかかわる代表的な文化遺産の意味について思考・判断したことを適切に表現する。

わかる

日本と中国との戦争が全面化し、さらにアジア・太平洋地域を戦場として、アメリカ、イギリスなどの連合軍との戦争に拡大した。日本は、戦時体制に移行し、各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原子爆弾の投下などによって被害を受け、敗戦を迎える一方、戦場となった地域の人々に大きな影響を与えた。

原爆によって多くの犠牲を払って敗戦する日本は、70年ほど前に、世界的な不況の打開と満州の権益を守るため、中国各地に戦争を拡大した。

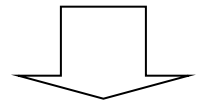
日本は、日中戦争からアジア・太平洋地域を戦場にする太平洋戦争に突入し、戦時体制に移行した国民は、戦争が全てのことに優先する苦しい生活を強いられた。

国内の各都市が空襲で焼かれ、沖縄の地上戦や広島・長崎の原爆投下により、日本は大きな被害を受けて敗戦する一方、日本による台湾と朝鮮の植民地支配が終わった。

まとめる

みえる

15年にわたる戦争を年表に整理し、戦争がもたらす多くの被害について考え、戦争に対する自分の意見を適切に表現する。⑩



いかす

「長く続いた戦争と人々の暮らし」について学習することで、自分が学んで考えたことをどのように次の世代の人に伝えていくかということ話し合い、自分の考えを新聞で表現する。⑪⑫

広島県にある原爆ドームは、核兵器をなくし、世界平和を目指す誓いのシンボルとして、世界文化遺産に登録された。①

日本は、世界的な不況の打開と満州の権益を守るため、中国各地に戦争を拡大し、戦場となった人々に大きな被害を与えた。生浜地区は田舎のため、被害は少なかった。②③

ヨーロッパでは第二次世界大戦が勃発し、日本は資源を求めて東南アジアに軍隊を進め、日独伊軍事同盟を結んでアジアの支配を試みたが、アメリカやイギリスなどと激しく対立して、太平洋戦争に突入した④⑤

東京や大阪をはじめ、各都市の軍事施設や工場、住宅地域が空襲で焼かれ、兵士以外の人も犠牲になって約六十万人の生命が奪われた。戦争が全てのことに優先する戦時体制になり、まちの様子や学校生活などが一変し、国民は苦しい生活を強いられた⑥

沖縄にアメリカ軍が上陸して地上戦を展開し、激しい攻撃によって住民も巻き込まれ、十二万人以上の犠牲者を出して占領された。⑦⑧(本時)

広島、長崎に原爆が落とされ、一瞬にして何万人もの命が奪われる中で、日本は降伏する一方、日本による台湾と朝鮮の植民地支配が終わった。⑨

世界文化遺産  
原爆ドーム 8月6日  
核兵器の被害 世界平和

世界的な不況 満州  
満州事変 国際連盟脱退  
日中戦争

第二次世界大戦  
日独伊軍事同盟 赤紙  
真珠湾攻撃 太平洋戦争

戦時体制 配給制 空襲  
学徒動員 集団疎開

艦砲射撃 ひめゆり  
ガマ 集団自決 地上戦

広島長崎原爆 平和の礎  
8月15日 日本の降伏  
台湾朝鮮植民地の終わり

目指す子どもの姿

戦後に残された資料やゲストティーチャーの話聞いて、戦争の被害や人々の暮らしの様子を地域や時期ごとに比較しながら理解するとともに、次世代に伝えるためにさらに学ぼうとする姿。

5 「みえる わかる いかす」の育てたい子どもの姿

観点	構成	子どもの姿
みえる 【事実認識】 事実を理解しようとする (態度面) 事実を理解する。 (内容面) (社会の仕組みがみえてくる)	態度	○戦争中、たくさんの方が亡くなり、現在も悲しみを背負って生きている人がいるという事実を念頭におき、ふさわしい態度で学習する。 ○原爆ドームが世界遺産に選ばれたことを通して、戦争を伝える側の思いを知り、自分だったらどのように伝えていくべきか。戦争の何について調べてくか、学習問題や予想を考えようとしている。
	内容	○戦争での被害は、場所によって異なっていることを理解している。  ○どのようにして戦争が始まったのか、なぜ戦争が起きたのか、学習を進めていく上での疑問を書き出し、見通しを持つ。
わかる 【社会認識】 事実と事実を関連づけて考えようとする。 (態度面) 事実と事実の関連性の理解。 (内容面) (社会のしくみや人の思いがわかる・よりよい社会がわかる)	態度	○ゲストティーチャーの話を聞いたり、地図や年表、地域資料、その他の資料を使って調べたりして、必要な情報を集めて読み取ろうとしている。  ○戦争に勝つために、国をあげて戦争の準備が行われていたことを理解している。法律や、社会の仕組みが戦争に反対することを困難にしていたことに気づいている。
	内容	○戦争をするために、金属の回収や、配給制、隣組制度などの仕組みが作られたことがわかる。 ○戦争をするために、国家総動員法や、治安維持法、教育勅語や防空法などの法律が整備されていったこと。新聞紙等掲載制限令などによって情報が規制されていたことがわかる。
いかす 事実認識・社会認識をもとに、自分の学習や生活にいかそうとする。 (次の学習にいかす・自分や社会にいかす)	学習	○各地の戦争の被害と人々の暮らしの様子を調べていく中で自分なりにわかったことや考えたことをノートや作品にまとめている。 ○戦争を単に悲惨な出来事としてとらえるのではなく、友達と話し合う中で、どうしたら防げたのか、これから予防するにはどうすればいいかを考えようとしている。様々な考えを受け止めたりしながら自分の考えをさらに深めている。
	生活	○過去に起きた戦争は、現在でも爪あとを残し、自分たちの生活に影響を及ぼしていることがわかる。 ○今後、日本と近隣諸国との関係を考えた時に、相手の国の立場や考えを理解し、どうあるべきかを考え自分の関わる政治や生活に生かそうとする資質や能力をもつ。

6 指導計画（12時間扱い）

過程	時数	児童の主な学習活動	教師の指導と手立て・評価
つかむ	1	原子爆弾が投下され、広島に街に被害が生じる様子をCG映像で視聴し、被害の大きさについて考える。なぜ原爆ドームが世界文化遺産なのかを考えさせ、平和記念資料館の館長の話を丁寧に読み取らせる。	◇原爆ドームが世界文化遺産であることに疑問をもち、その理由を考えようとするとともに、戦争の様子や当時の人々の生活に関心をもち、学習問題を考え表現している。(関・意・態)

		<p>日本がいくつもの国と戦った戦争は、どのような戦争だったのでしょうか。 また、そのころの人々はどのような生活をしていたのでしょうか。</p>	
調 べ る	2	金属が回収され、配給制や集団疎開、隣組制度や国家総動員法など、国民の生活すべてが戦争に注がれたことを捉える。	◇戦時中の生活の様子について、聞き取り調査をしたり資料を活用したりして調べ、国民生活のすべてが戦争に注がれたことを読みとってまとめている。(観・技)
	3	戦時中の生活の様子について、本行寺の副住職さんから当時の生浜地区についての講話を聞く。	◇自分たちの住んでいる地域が戦争中にどのような状態だったのか、興味や関心をもっている。(関・意・態)
	4	第二次世界大戦が始まり、資源を確保するためにドイツとイタリアと同盟を組み、太平洋戦争を始めたことを理解する。	◇戦争の広がりや当時の我が国の状況と関連づけて考え、資源を求めてアジアを支配しようとして米英などと対立し、戦争が広がったことを表現している。(思・判・表)
	5	我が国が不況の打開や満州での権益を守るために戦場を中国全土に広げ、中国の人々に大きな損害を与えたことがわかる。 (ピーススタッフ)	◇我が国が不況の打開や満州での権益を守るために戦場を中国全土に広げ、中国の人々に大きな損害を与えたことがわかっている。(知・理)
	6	アニメ「ひめゆり」を視聴して、沖縄戦とはどのような戦争だったのか、調べてみたいことを書き出す。	◇これまで学習してきたことを参考にしながら、比較できる対照を探しながら調べたいことを書く。(関・意・態)
	7 (本時)	沖縄戦における艦砲射撃の被害の様子と、兵士以外にも多くの国民が犠牲になったことがわかる。	◇沖縄戦では、国内唯一の地上戦が行われ、艦砲射撃等の攻撃で、兵士以外にも多くの国民が犠牲になったことがわかっている。(思・判・表)
	8	沖縄戦・広島・長崎への原爆投下による被害の様子を振り返り、多くの犠牲を出した戦争が、終わったときの人々の様子について話し合う。	◇沖縄戦・広島・長崎への原爆投下により、多くの人々が犠牲になって敗戦を迎えたことがわかっている。(知・理)
	ま と め る ・ い か す	9 10	<p>戦争でたくさんの人が亡くなり、国民は苦しい生活をするようになった。 場所によって被害の状況は異なり、一人一人の戦争体験は異なる。戦争の起きた原因や過去の出来事を伝えるために、たくさんの人が行動している。</p>
		年表の形式で感想を書いたふせんを貼り、戦争の様子とそれに対する考えを整理する。当時の小学生の立場で戦争が終わった時の気持ちを考える。戦争に対する自分の考えをノートに書く。	◇戦争がもたらす多くの被害について考え、戦争に対する自分の意見を適切に表現している。 (思・判・表)
1 1 1 2		これまでに学習してきたことや、これから戦争をどのように伝えていくか、新聞にまとめる。	◇戦争について学んだことを、図や資料を活用しながら新聞にまとめ、自分の意見を述べている。 (観・技)

### 3 観点別評価規準

観点	評価規準
社会的事象への 関心・意欲・態度	日中戦争、我が国にかかわる第二次世界大戦、その頃の国民生活とそれらに関わる代表的な文化遺産に関心を持ち、進んで調べようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	日中戦争、我が国にかかわる第二次世界大戦、その頃の国民生活とそれらに関わる代表的な世界遺産について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、我が国が戦時体制に移行して、敗戦によって国民が大きな被害を受けたこと、戦場になった地域に大きな損害を与えたことや、それらに関わる代表的な文化遺産の意味などについて思考・判断したことを、言語などで適切に表現している。
観察・資料活用の 技能	日中戦争、我が国にかかわる第二次世界大戦、その頃の国民生活とそれらにかかわる代表的な文化遺産について、文化財、地図や年表、戦争を体験した人の話、その他の資料などを活用して必要な情報を集めて読み取り、年表や作品などにまとめている。
社会的事象について の知識・理解	我が国が戦時体制に移行して、敗戦によって国民が大きな被害を受けたこと、戦場になった地域に大きな損害を与えたことがわかっている。

### 8 主題との関連

#### 主題との関連

#### (2) 視点2 **追究意欲を高め、社会認識が深まり、参画への意識が育つ教材の開発**

##### 〈手立て1〉社会的事象を身近に感じ、追究意欲が高まる教材

戦争の被害を学習していくにあたり、教科書の資料を提示するだけでは、知識を得るだけになってしまうと感じていた。そこで、本単元では、地元のお寺の住職さんに話を聞くことで、自分たちの生活しているこの地にも戦争があったことをとらえさせる。また、本時では、実際の艦砲の破片を持つ体験をさせる。手で触れ、重みを感じることで、このような物が大量に撃ち込まれた様子を具体的に想像させる。兵士だけでなく、自分たちのような住民の被害や置かれた状況の分かる資料を用意することで、より身近に感じさせ、切実にとらえることができるようにしたい。単に歴史上の出来事としてとらえるのではなく、戦争の時代を生きた人や、戦争の体験を伝えている人の思いにふれ、平和や国際協調の大切さについて考え追求していけるようにしたいと考える。

本時では、文献資料、写真資料、映像資料、実際の艦砲の破片を持つことによる体験的な活動を考えている。しかし、最初から順番に提示していくのではなく、艦砲の破片を持ち、そこから、子どもから出てきた考えを基に資料を提示し、艦砲射撃の威力、集団自決、疎開児童が犠牲となった対馬丸事件など、住民と軍隊が混在して逃げることになったことなどに関して理解を深めていけるようにしたい。

子どもがこれまで自分の学習してきた内容を振り返ることで、どこに着目して調べていけばいいか観点を持って学習に臨めることや、自分の考えの変容や深まりに気付くことができるようにすることで、新たな課題に対して主体的に考える意欲をもつことができるようにしたい。

#### (2) 視点3 **主体的に学び、参画への意識が高まる学習過程の工夫**

##### 〈手立て4〉人の働きから学ぶ学習の展開

「つかむ」過程で、広島原爆ドームがなぜ世界遺産に登録されているのかということを考える。そこには、戦争という過ちを二度と繰り返さないという人の思いが込められている。ただ、人の思いは、押しつけになってしまうと子どもたちの心に入っていないと思われる。

教師自身は、沖縄のひめゆり平和祈念資料館で、学芸員の実習をしている時に、戦争体験者の方々の「伝えたい」という思いにふれ、戦争体験者の方から話を聞き、どのように伝えていくかを日々試行錯誤している学芸員の方々の姿を見て関心が高まり、事実を伝えていくことの大切さについて授業を通して伝えたいという気持ちがある。

そこで、教師だけではなく、ゲストティーチャーを招き、実際に満州で戦争を体験した方や、過去の出来事を継承・伝えている学校の近くに住むお寺の住職さんから話を聞く機会を設けた。実際に社会に生きる人が、「どのような目的で」「思いや願いをもって」「どんな工夫や努力をして」社会で生活し、働いているのかを学ぶことが社会的事象の意味を確かに理解することにつながると考えた。

「いかす」場面において、自分たちにできることを考える時、それぞれのゲストティーチャーの体験したことや伝え聞いた内容の理解はもちろんのこと、同時に、戦争をどのように次の世代の人に伝えていくべきか、そのためにはどんなことを学び続け、行動していかなければならないのかについても考えさせたい。

## 9 本時の指導（7/11）

### （1）目標

国内で唯一地上戦のあった沖縄戦における戦争の被害や住民の様子について調べ、軍人だけではなく疎開をした住民も多く犠牲となったことを資料から読み取る。（思考・判断・表現）

### 授業の展開

時配	学習内容と活動 (主な学習内容)	教師の指導・支援 (○指導・留意点 ◇評価)	資料
5分	<p>1 艦砲の破片を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思ったよりも重い</li> <li>・ごっごっしている</li> <li>・ぎざぎざしていて錆びている</li> <li>・鉄でできている</li> </ul> <p>○艦砲が降ってきたらどこにかくればいいのかを予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家の中、学校、公民館、さとうきび畑の中</li> </ul>	<p>○班ごとに1個ずつ配布する。</p> <p>○実際に持ったり、手触りやにおいをかいだりしてもよいことを伝える。</p> <p>○戦争中に空中を飛び交っていたことを告げる</p> <p>○教師自身が沖縄でさとうきび畑にかくればよかったことを紹介する。</p>	艦砲の破片
<p>沖縄戦とは、どのような戦いだったのか。 また、住民はどのような様子だったのか。</p>			
2分	<p>2 艦砲射撃の様子の映像を見る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次々と撃ち込まれている。</li> <li>・たくさんの数がある。</li> <li>・スピードが速い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・艦砲が実際に打ち込まれている映像を視聴する。（NHK番組から抜粋）</li> </ul>	映像資料
15分	<p>3 教室にある資料コーナーを回り、沖縄戦に関する資料を調べる。</p> <p>「この資料から～なことがわかる」という形式で、ノートに箇条書きに書いていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄戦では、アメリカが上陸してきた。</li> <li>・爆弾が落ちた跡が水たまりになっている。</li> <li>・アメリカの方が軍人の数が約5倍多い。</li> <li>・16インチは人の胴よりも太い。</li> <li>・船で疎開をするのも危険だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真のパネルを掲示する。</li> <li>・どうやって調べていいかわからない子には戦争の被害・住民の様子など、調べる観点を助言する。</li> <li>・ねらいに沿った内容を書いている子どもの記述を称賛する。</li> <li>・全てを見なくても、2～3個にしぼってじっくり見るように助言する。</li> </ul>	



10分	4 資料を読み取って見てわかったことを発表する。	・「この資料から～ことがわかりました。」という形式で、根拠をもって発表するように声をかける。	
3分	5 本時のまとめをする	<p>沖縄は、国内で唯一の地上戦であり、圧倒的にアメリカ軍の方が優勢だった。軍人だけではなく、住民にもたくさんの被害が出た。</p>	
10分	6 学習を終えての感想を発表する。 ・空襲とは違って地上戦が行われた。 ・原爆の被害とは異なり、数か月も戦いが続いていた。 ・なぜアメリカは沖縄を攻めようとしたのか。	・自分の調べた資料をもとに発表できた子や、これまでの学習と比較して発表できた子をほめる。 ◇資料をもとに、沖縄戦の特徴を読み取ることができている。また、学習後の感想として自分の意見や思ったことをまとめている。 (発言・ノート)	

板書計画

沖縄戦とは、どのような戦いだったのか。また、住民はどのような様子だったのか。

「この資料から～なことがわかる」

**資料①** 映像から

- ・すごい勢いで発射されている。
- ・スピードやテンポが速い

**資料②**

- ・国内で唯一地上戦が行われた。

**資料③**

- ・軍人の数・兵器ともにアメリカが多い
- ・日本は住民も亡くなっている

**資料④**

- ・艦砲によって、地面が穴だらけになった。
- ・1インチ=2.5cm 消火器くらいの大きさ

**資料⑤** (対馬丸沈没)

- ・疎開をするのも危険だった。
- ・一般の住民も巻き込まれて逃げられない状態

**資料⑥**

- ・降伏できず、自決しなければならぬほど、追い詰められていた。

沖縄戦は国内唯一の地上戦であり、圧倒的にアメリカ軍の方が優勢だった。軍隊だけではなく、住民にもたくさんの被害が出た。

**感情面**

- ・残酷
- ・悲惨
- ・むごい
- ・怖い
- ・かわいそう

提示した資料





